



Bauhaus. Project



Architecture  
Presentation

architect  
Tsutomu Hasebe

H.A.S.market



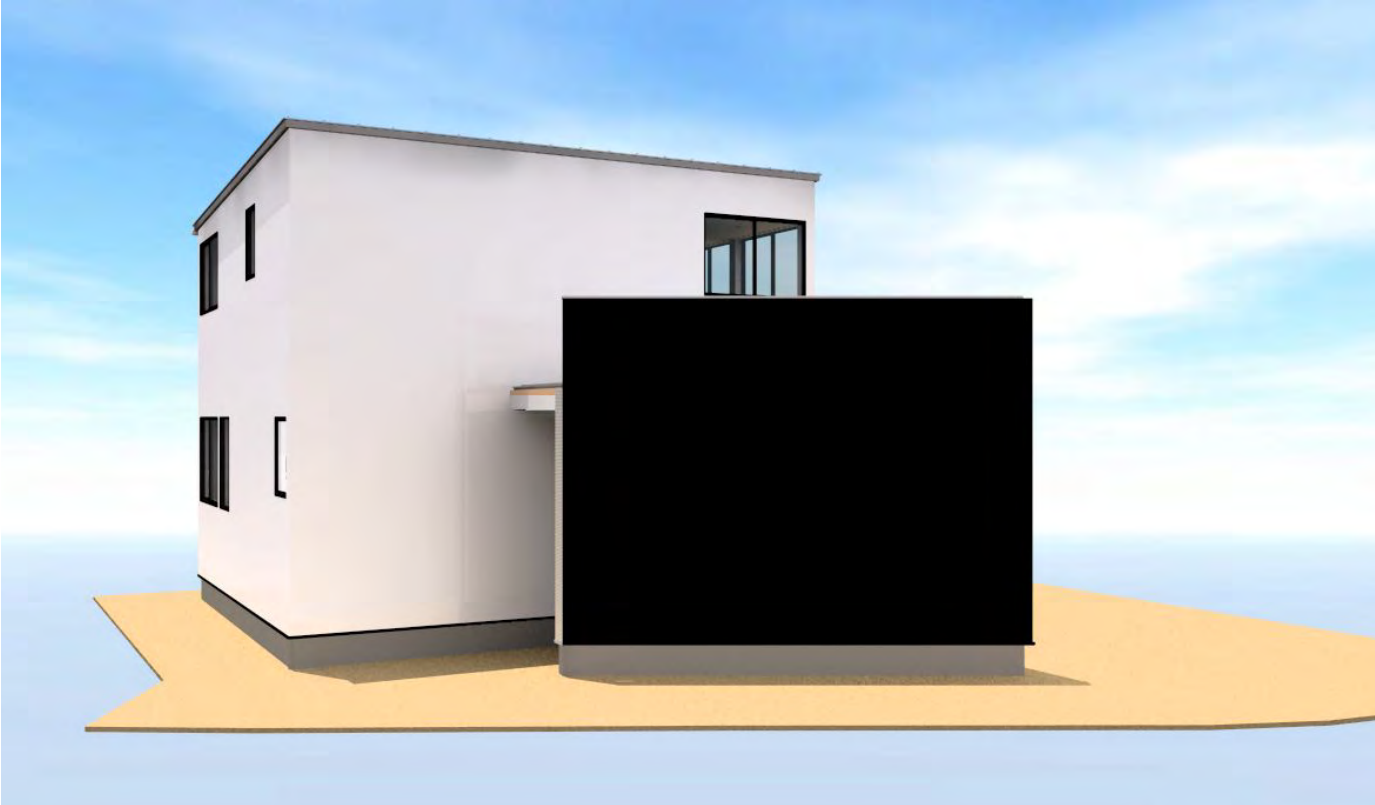
建築家と建てる家を、  
身近に、手軽に



R+house



BAUHAUS.  
The house satisfies the functions,  
and its living and its design are there should be it beautiful.





担当建築家

長谷部 勉

Tsutomu Hasebe

有限会社 H.A.S.Market@東京

豊かで快適な家づくりを心がけています。

情報やイメージを共有しながら、ひとりよがりにならない設計プロセスを踏むことを大切にしています。

いかなる問題にも妥協することなく、効果的な解決策を見出しながら価値のある家づくりを続けたいと思っています。

#### Profile

1968年	山梨県生まれ
1991年	東洋大学工学部建築学科 卒業
1991年	堀池秀人都市・建築研究所 入所
2000年	株式会社服部建築計画研究所 入所
2002年	I.B.S.ARCHITECTS 参画
2002年	H.A.S.Market 設立
2005年	日本フードアナリスト協会 評議委員
2006年	東洋大学 非常勤講師
2014年	建築家住宅の会 理事

# デザインの素晴らしさ&長持ちするデザイン

今の日本の住宅の寿命は約 30 年というのが普通です。

ちなみに、アメリカでは 70 ～ 100 年以上、イギリスでは 100 ～ 120 年以上。

建物の設計や住まい方次第で、家の寿命を延ばすことは可能なんです。

日本と欧米、なぜこんなに違いがあるのか？

欧米では、ライフスタイルに合わせ自由に変更できる家なので、  
お金もあまりかけずに、生活に合った良い暮らしをしたり、子どもの世代に受け継いだり・・・  
そんな良い循環ができていますので建物の寿命が長いのです。

実際に、何十年も前にデザインされた建築や家具が今の時代でも愛され続け、  
価値のあるものとして受け継がれています。



1904 年  
バレルチェア



1920 年代  
LC2/LC3 ソファ



1929 年  
バルセロナチェア

## 近代建築の三大巨匠

▶ ミース・ファン・デル・ローエ  
1931 年 サヴォア邸



▶ フランク・ロイド・ライト  
1936 年 落水荘



▶ ル・コルビュジェ  
1951 年 ファンズワース邸





## 建築家の高度な設計スキル

お客様のライフスタイルにあった設計をする上で重要なことのひとつに『動線』を考慮することがあります。

**動線とは、家の中を自然に動くときによく通る通路のこと。**

普段の生活で朝の忙しい時間帯や、夜の家族でくつろぐ時間帯での

動線、炊事・洗濯・取り入れ・お風呂・就寝の準備など

家事をする時の動線、来客があるときの動線など、その家族に合った

**動線を計画する必要があります。**



お父さんの部屋

[illegible]

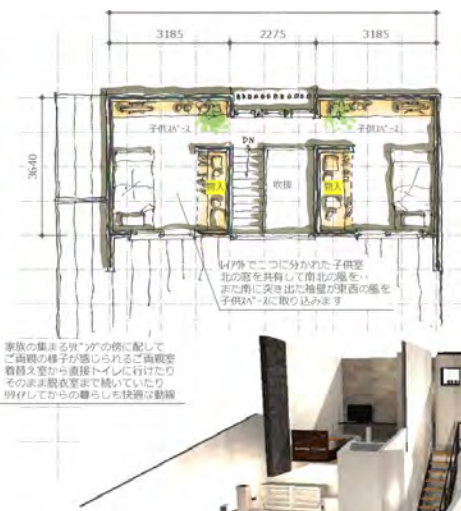
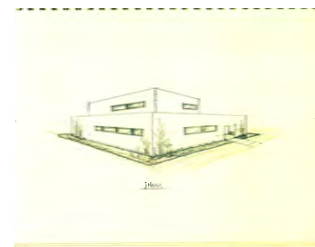
お母さんの部屋・押し入れ

[illegible]

それ以外、毎日の負担が減るように、WCを1番近くなるようにしました。  
少しでもラクしたいE型E型とも思います。

全体の配置として

さほど大きな影響はLDKとは無関係)とのアセスメント。日々の生活の重なり合いと考へられた。あとは、大切にしたいのは和室の考え方もきちんと成り立つように……(心)です。■様御家族が安心して快適に暮らしていけるよう想いを込めて計画させていただきます。





# 敷地を読む

樹木は同じ種類でも同じ形のものは一つありません、枝ぶりも違う。

それは生えている場所が違うからです。

住宅も同じです。敷地に溶け込むデザイン、自然の風・光を利用するデザインになるべきなのです。

建築家は、まず敷地を見て、その中でお客様の要望を入れて全体的にデザインしていきます。



建築家 藤本誠生建築設計事務所@熊本 藤本誠生



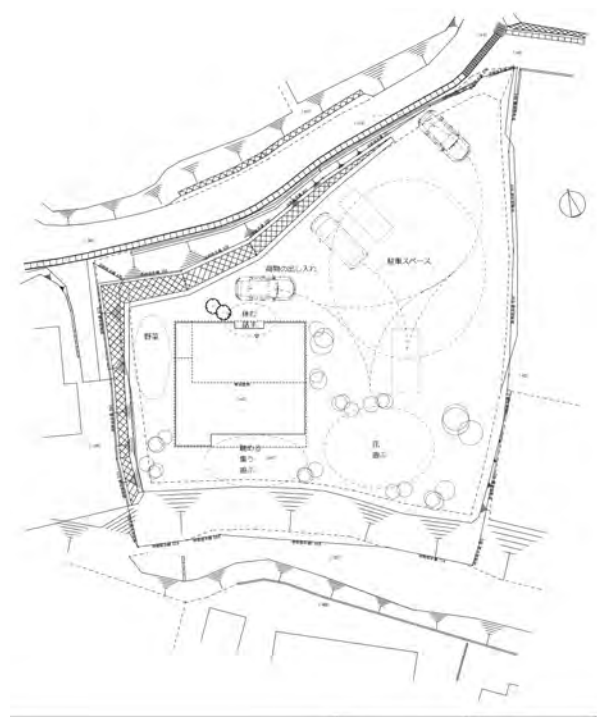
建築家 スギハラ建築設計事務所@広島 杉原豊実



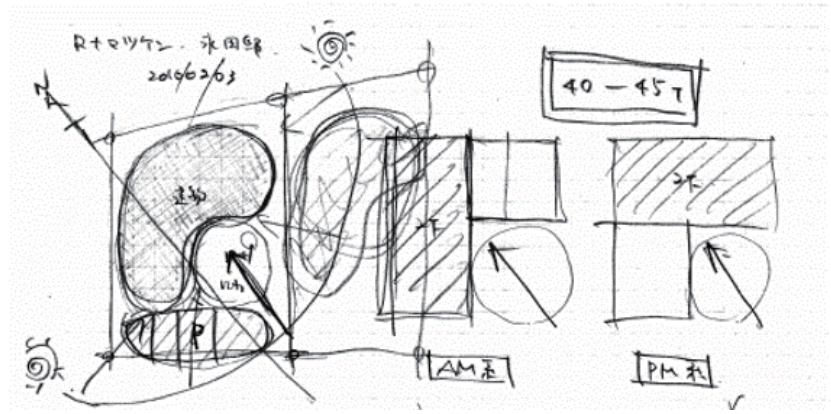
建築家 小川建築設計事務所@山口 小川真一郎



建築家 小川建築設計事務所@山口 小川真一郎



光・風・周辺の交通量・車が多いか・  
人が良く通るか・昼夜のギャップ・隣家と距離感・  
隣家の窓・玄関位置・どんな部屋なのか土地の  
個性を考え、間取りや窓の位置は必ずその敷地に  
合わせて作りこまれています。



# ヒアリング力と提案力

建築家と住宅会社の設計担当者とは、家づくりに対するアプローチが全く違います。

例えば・・・

LDKは何畳欲しいですか？  
和室は何畳欲しいですか？

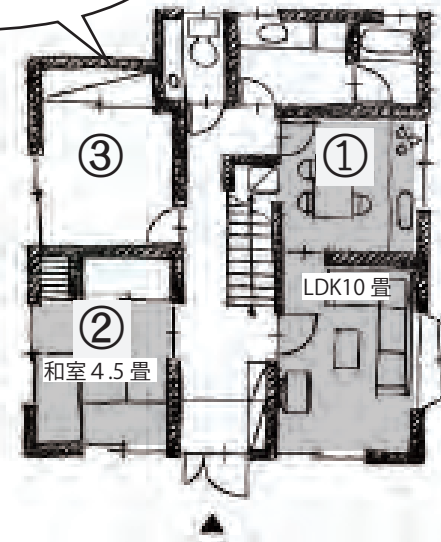
①リビングとダイニングは分けて全部で  
12畳くらい欲しいです！

③洋室も1つ欲しいな

②和室は5畳あるといいなあ・・・！

空間の寄せ集めプラン

ご希望どおりのプランを作成しました。  
いかがでしょうか？最高でしょう？



一見、要望を聞いてくれて反映させてくれているように感じますが、  
これは要望をパズルのように当てはめただけの【空間の寄せ集め】になります。  
それは、本当にお客様にとって最適な間取りなののでしょうか？

建築家は、こう聞きます。

「目をつぶって想像してください。建てた家で何をしている光景ですか？」

その答えが、一番やりたいことです。そのライフスタイルを実現してくれるのが建築家。

簡単にヒアリングされて出てきた間取りと、しっかりヒアリングされプロの建築家の知恵が反映された  
結果とは違います。

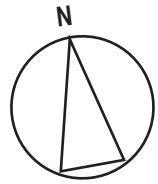


さあ、建築家の提案を見てみましょう→



# block planning

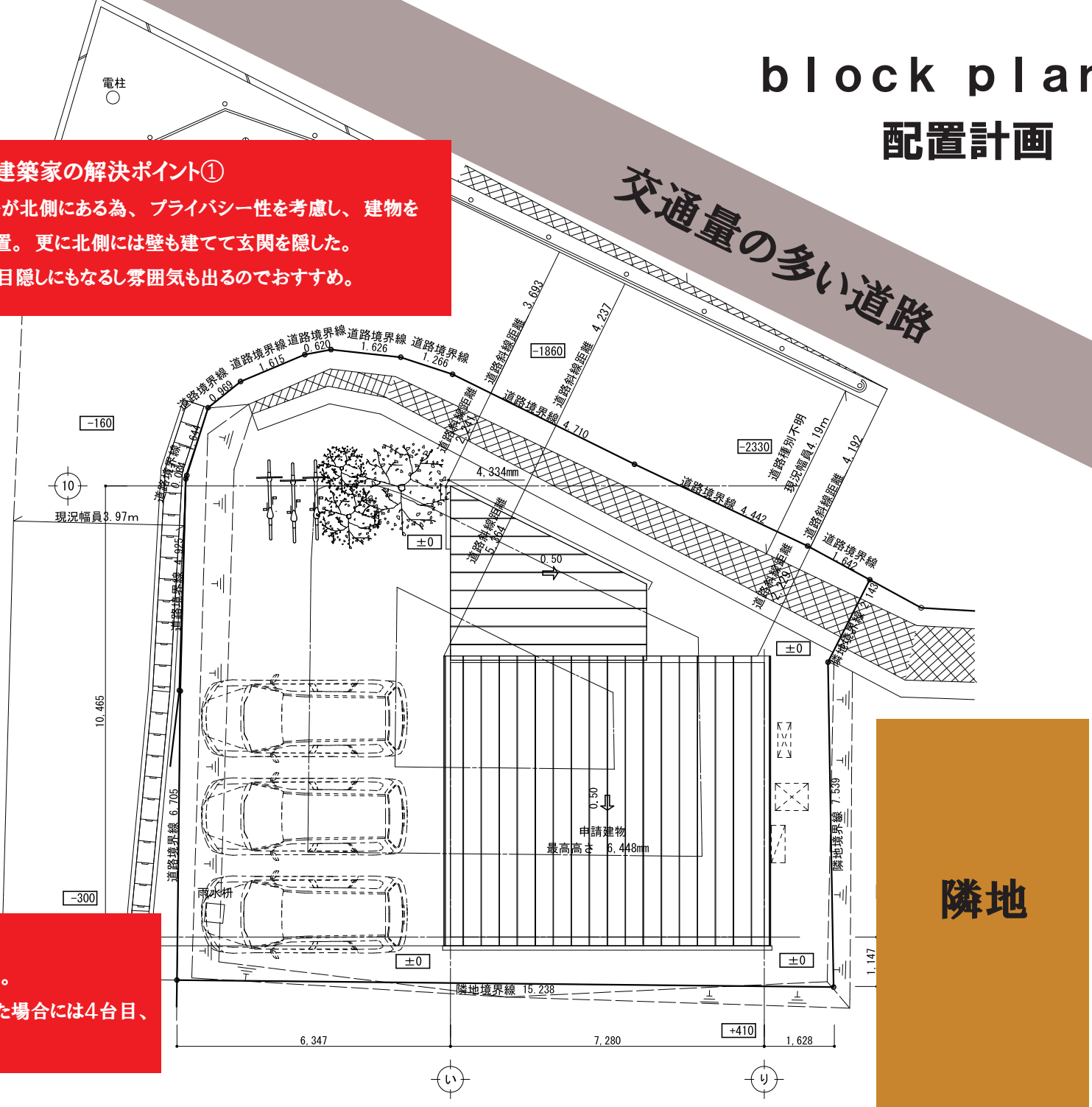
## 配置計画



**建築家の解決ポイント①**

交通量の多い道路が北側にある為、プライバシー性を考慮し、建物を道路から離して配置。更に北側には壁も建てて玄関を隠した。樹木を植えると、目隠しにもなるし雰囲気が出るのでおすすめ。

空き地

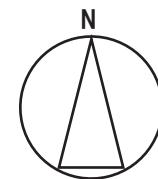


**建築家の解決ポイント②**

駐車スペースは並列で3台分確保。  
来客時や将来お子様が車を所有した場合には4台目、庭を無くせば5台目も可能。

隣地





玄関はベビーカーや主人のゴルフバックなどでごちゃごちゃしてしまうので、出来れば家族用と来客用で分けたいな～

玄関を2つとなると、コストもかかるし、スペースも必要なので面積効率が悪くなってしまいます。そうなるのもったいないので、玄関を広めに2畳分とり、大容量のシューズクローゼット、更に外の壁を利用した外部収納も設けました。これだけの収納があれば、いつでも玄関をすっきりさせられるはずです。

雨の日でも気にせず、バーベキューができると嬉しいなあ

玄関ポーチに目隠しの壁を使って屋根を設けましょう。そうすれば、雨の日でもここでバーベキューが可能です。そんなに広くはありませんが、周りの視線も気にせず楽しめますよ！

今はまだ子どもが小さく、手がかかるので毎日大忙しで…

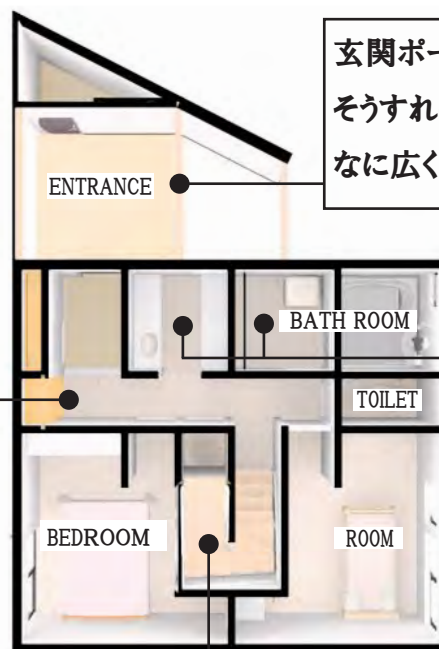
脱衣室と洗面室を別にして、それぞれ広めに設けました。脱衣室では「洗濯→干す→畳む→片付ける→着る」が全てできます。洗面室が別にあると、来客にも気兼ねなく使ってもらえますし、広いので、将来お嬢様と奥様が同時に使うようになっても不自由なく使えるはずです。

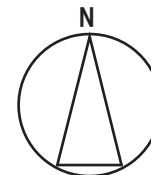
わぁ～！家事を時短できそうで嬉しいです！！

洗面室のカウンター下にタオル類とかが収納できそうで助かる！

収納はとにかくたくさん欲しい！！見える収納ではなく、なるべく隠したい！！

階段下も収納に利用し、各部屋にそれぞれ収納を設けました。あんまり収納…収納…となってしまうと、収納スペースがメインになってしまい、生活スペースが限られてきてしまうので、最低限にしていますが、お持ちの荷物量には十分だと思いますよ！



2nd  
floor

漠然とですが、家は明るくて開放感があるといいなあって考えています。

敷地を見てすぐ、2階リビングがいい！！と感じました。

高台にあり、西側が開けているので、明るくて開放感のある家が叶います。

キッチンに立っていても、リビングのソファからでもいつでも窓の外を感じられます。

晴れてるなぁ～、雨が降ってきた、日が暮れてきた、虹が出てる…とても素敵だと思います。周りからの視線はかわせますので、カーテンを開けて過ごせます。

外へ視線が抜けることで、リビングがより広く感じられるんですよ！

お子様が小学生のうち、リビングでも宿題や勉強ができるように、カウンターを設けています。

奥様のワークスペースとしてもぜひ活用されてください。



2階にリビングで子供部屋は1階となると、子どもの様子が伺いにくくて少し心配です。



プラン上、子供部屋、主寝室と名前を付けていますが、もちろんどんなふうに使っていただいても構いません。お子様が小さいうちは、みんなで寝る→お子様が少し大きくなったら兄妹で寝る→それぞれの個室が必要になる→進学や結婚で家を出る…家族の生活スタイルは変化するものですから、自由に使って下さい。

どの部屋にもあまり差をつけずにプランを作っているので、どんな生活スタイルになっても対応できますよ。



両親が遠方において、遊びに来る時は泊まりになるのでゲストルームも必要かな～

ゲストルームをリビング横に配置してみました。

ゲストルームとリビングの間の壁は無くして、リビングを広く見せることも可能ですが、ゆくゆくは同居の可能性もあるとの事だったので、お互いに気を遣わなくていいようにきっちり仕切りました。

普段は、ご主人の書斎として使われてはいかがですか？

すごく良いですね！！

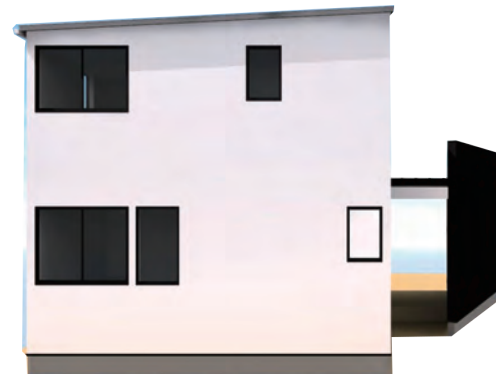
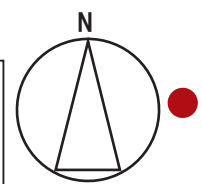




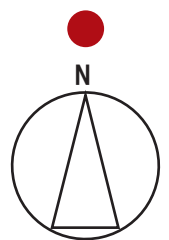
南側：すぐ隣りが他の分譲地だったため、後に家が建つことが想像される。そうなった時のプライバシー性を考慮し、窓は最小限に配置した。



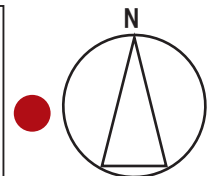
東側：隣りの分譲地に面してはいるものの、通路として使われるぐらいの幅しかないので、朝日を感じて起きられるよう、居室には窓を配置。建物の美しさを保つため、室外機などの外部設備は、建物の裏側になるこちら側に設置する。



北側：高台とはいえ、交通量の多い道路に面しているので、窓は最小限に配置。  
建物と目隠しの壁の色のコントラストが美しい。



西側：土地が開けているので、窓を最大限に配置し、室内からの開放感を演出。  
窓を水平に並べることで建物がより美しくなる。





# 熊本風配図

・・・とは、ある場所における一定期間の風向の頻度を八方位もしくは一六方位に分けて表し、同時に各風向きの平均風速をも示したもの。

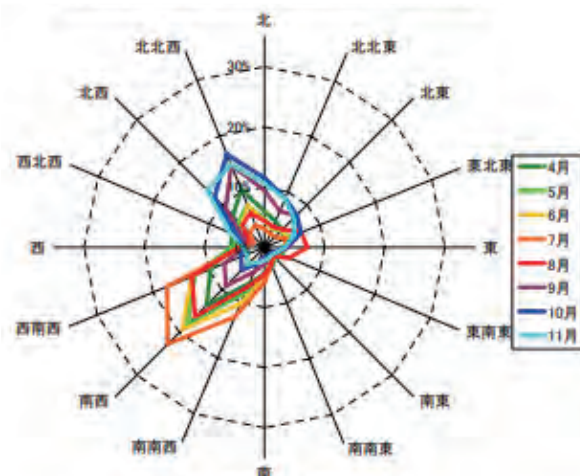


図4a 月別風配図(起床時)

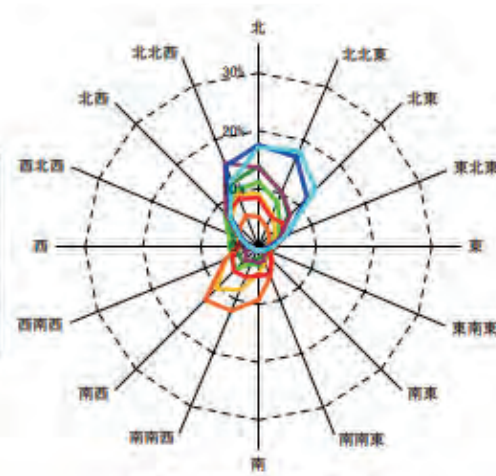


図4b 月別風配図(就寝時)

## 起床時

1F



南西からの風を取り入れ、北東に抜けるような窓の配置。

2F



## 就寝時

1F



北東から吹く強めの風を目隠しの壁で防ぎつつ、室内へ取り入れる。

2F



夏は、風が弱いが、効率的に風を取り込めるような窓の配置になっている。



冬は部屋の奥まで光を取り込み暖かく、夏は窓から入る直射日光を避け、涼しく自然の力を最大限活かしたパッシブ設計。

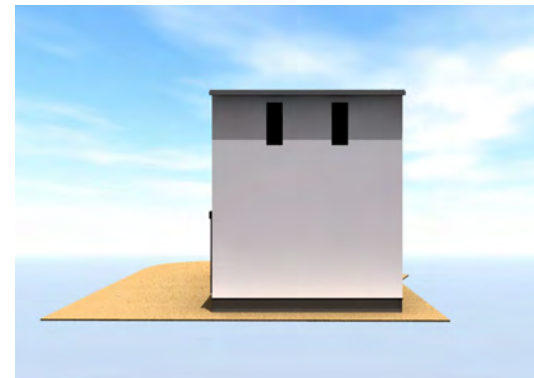
真冬午後12時



(冬至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が低くなる為、窓から部屋の奥まで暖かい光を取り込むことができる。



真夏午後12時



(夏至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が最も高くなる為、軒を出して日射を遮り、室温の上昇を抑える。



夏と冬では太陽の位置が異なります。建築家は季節ごとに変わる太陽の動きも熟知した上で設計します。